

2014年度・第二演習の記録

<前期>

- 4月11日：芦名定道「オリエンテーション」、「紀要・第2号から：脳神経科学からキリスト教思想へ」
- 5月22日：渡部和隆「内村鑑三と活けるキリスト——「ヘブル人への手紙」13章8節と「ヨハネ黙示録」1章8節の解釈を中心に」
金香花「植村正久における「神」と「上帝」」
- 5月29日：洪伊杓「植民地時代における韓国キリスト教の日本認識研究—「内地」概念を中心に—」
谷塚巖「仮名テキスト読解のための言語論的考察の試み——ヨハンエス・クリマクスの「著作」を中心に」
- 6月5日：南裕貴子「フタイターク「伝道の神学」における「キリスト教と諸宗教」——キリスト教側からの三つの答えへの批判から」
張旋「現代中国におけるフェミニスト神学の展開——R. R. リューサーの受容を中心に」
- 6月26日：岡田勇督「伝統に対する適切な距離感を求めて——修士論文序論構想」
長原尚子「シュペーナールと霊的祭司職」
- 7月3日：平出貴大「前期P. ティリッヒにおける「宗教哲学」の構想——宗教と文化の分裂の意識からその統一へ」
張舒青「アメリカ諸植民地の成立」
- 7月17日：岩井謙太郎「シュヴァイツァーの倫理思想における幸福の問題」

<夏期・大学院生研究発表会>

- 9月1日・2日：日本基督教学会・学術大会（9月9日～10日）、日本宗教学会・学術大会（9月12日～14日）における個人研究発表予定者による予行演習。

<後期>

- 10月3日：芦名定道「オリエンテーション」、「書評：伊藤慶郎『シュライアマハーの対話的思考と神認識——もうひとつの弁証法』晃洋書房、2013年」
- 10月23日：渡部和隆「内村鑑三における贖罪論——山上の垂訓とコリント前書とヨハネ第一書を中心に」
- 10月30日：洪伊杓「松山高吉と海老名弾正の神道理解に関する比較分析」
南裕貴子「フタイターク「伝道の神学」における「キリスト教と諸宗教」」

- 1 1月 6日：金香花「日本初期キリスト者における「上帝」の使用」
張旋「R・R・リューサーのキリスト論」
- 1 1月 13日：岡田勇督「伝統概念の二面性——ガダマー・ハイデガー・エーベリンクを
軸にして」
長原尚子「敬虔主義の始まり——フィリップ・ヤーコプ・シュペーターと
聖書」
- 1 1月 27日：張舒青「ジョン・ロックの所有権論——「パーソン」の理解をめぐって」
平出貴大「20年代におけるティリッヒの存在論」